

2024年7月19日

学 校 長 様
小学校・中学校教員 様
高等学校教員 様
養護学校・特別支援学校教員 様

技術教育研究会北海道支部
代表 平 舘 善 明 (帯広畜産大学)

技術教育研究会北海道支部 夏季研修会のご案内

猛暑の候、先生方におかれましては、益々ご健勝にて、日々の教育実践にご尽力のことと存じます。

さて、本会は2020年1月に創立60年を迎えた教育研究団体で、明日の授業に役立つ具体的な教材づくり・研究・開発などを行いながら、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などで技術教育に携わる先生方が抱える課題や悩みを共有し、明日への活力や解決策を見出すことを目的として、標記の研修会を開催します。詳細は下記の通りです。

時節柄、ご多忙のことと存じますが、ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

- 主 催 技術教育研究会北海道支部
- 期 日 2024年8月5日(月)～6日(火)
- 会 場 浦河町立荻伏中学校(浦河町荻伏527)
- 研修内容
 - 「工芸作物としてのマリーゴールド栽培と染色での活用法」
 - 「鋼の強度を学習できるマイナスドライバーの製作実習体験」
 - 技術教育の現状と教材づくりに関する実践交流 など
- 日 程 予定は天候状態等によって一部変更する場合があります。
第一日 8月5日(月)

	12:45	13:00		16:45	19:00
	受付	開 会 式	実技・理論研修講座 (花の栽培実習と染色)	移 動	夕 食

第二日 8月6日(火)

9:00		12:00	13:00	13:30	15:30
	実技・理論研修講座 (マイナスドライバー)	昼食 休憩	移 動	実践 交流	閉 会 式

6. 研修講座

I. 「工芸作物としてのマリーゴールド栽培と染色での活用法」

講師 紋別市立潮見中学校

伊藤 大貴 氏

(免許外指導者や家庭科担当の先生方も実習で活用できる内容です)

II. 「鋼の強度を学習できるマイナスイボの製作実習体験」

講師 遠軽町立遠軽中学校望の岡分校 井川 大介 氏

7. 実践交流 日頃の実践の中で解決できない問題や悩んでいることを共有し、また、明日の授業へのヒントを持ち帰っていただくために、座談会形式で率直に話し合うことで、交流を深めます。

8. 申し込み 2024年7月28日(日曜日)までに下記の事務局へ以下の内容を左記のQRコードあるいは、<https://forms.gle/zDhDdP4Uamr7LH1s5>から入力のうえ、お申し込みフォームでお申し込みください。



①参加希望者お名前(ふりがな)、②ご所属または勤務先、③参加者個人の電子メールアドレス、④研修会当日に着信可能な参加者個人の携帯電話番号、⑤参加希望者のご専門(**技術科を免許外でご担当の場合は必ずお申し出下さい**)、⑥宿泊斡旋の希望の有無、⑦当日の交通手段(都市間バス・鉄道・自家用車)、⑧実践資料・教材紹介の資料提供の有無、⑨技術教育研究会会員・未入会について全て記載の上、ご送信ください。(教材準備のため期日厳守でお願いします)

9. 費用 (1) 実習の材料費は、3,000円程の予定です。
(2) 夕食の会費は実費となります。
・それぞれ当日お支払いいただきます。

10. その他 (1) 可能ならば、年間指導計画(題材配当表)、授業で使用したプリントや資料、授業や実習で使用しているキット教材・教材・教具、テスト問題など、実践交流の参考となる資料を、お持ちください。
(資料は15部ご用意下さい)
(2) 免許外で指導されている方につきましては、実際に指導しているキット教材やテスト問題等を持参されますと不安やお悩みについて、当日に直接相談にのることが可能です。
(3) 製作したものの他にも、参考教材・資料をお配りする予定です。
(4) 実習に適した服装でご参加下さい。
(5) 宿泊については、事務局と現地実行委員で対応します。
1泊朝食付きで8,000円程度の旅館に宿泊を予定しています。

担当事務局

技術教育研究会北海道地区全国委員

井川 大介

電子メール

gikyouken@gmail.com

技術教育研究会北海道支部では、これまでも中学校で技術科を免許外で担当する先生や小学校・高等学校・特別支援学校の先生方を対象とする実技研修講座や理論研修講座を開催してきました。

今回は2学期のスタートを前にして、「理論と実習を関連付けた授業づくり」のテーマを設定し、技術科の授業や実習の内容と進め方を共に考えることのできる講座を開催します。

(研修講座の内容紹介)

I 「工芸作物としてのマリーゴールド栽培と染色での活用法」

講師 紋別市立潮見中学校 伊藤 大貴さん

知識や経験はもちろんのこと、部品や材料の調達が困難なへき地校での教育条件整備への悩みや、技術科とはどのような教科であるのかを教職課程で履修したことのない方が技術科を免許外で指導するという事は、大きな悩みや不安の一つといえるでしょう。

私たちの衣服は工業技術のもとで染色されており、また、植物からの染色は排水などの面から環境とのかかわりが深くあります。

栽培学習では、食糧を生産する実習が多く、各地でさまざまな実践が行われています。現実社会では、栽培は全て食糧生産ばかりということではなく、中には工芸作物として栽培することもあるのです。伝統技術としての染め物では、染色技術の発展と地球環境について配慮した技術も今、求められています。

紅花やマリーゴールドといった花が咲く植物なら、学校園の栽培計画や花壇設計など技術教育についての範疇にも広がる学習内容へと発展があるでしょう。本講座では、自然や材料にはたらきかける学習として布にする加工までも思い描くことができるような実践授業をもとに皆さんと一緒に工芸作物の栽培学習について考えます。

II 「鋼の強度を学習できるマイナスイライバーの製作実習体験」

講師 遠軽町立遠軽中学校望の岡分校 井川 大介さん

2007年の技教研北海道支部夏季研修会で製作したマイナスイライバーは、その柄をプラスチックで加工することと、低温焼き戻しをより手軽に行うこと、樹脂の授業でどのように取り上げるかについて重点的に検討しました。

今回は、諸物価高騰となっていて金属加工学習がやりにくくなったという声を聞くようになりましたので、教育内容の焦点化を図って中学校でも実践しやすくなるよう、柄を木材としました。

また、材料に関する学力を子どもたちにつけさせる目的で、熱処理における材料の強度の変化をハードテスターや鉄工ヤスリで実感できるようにする授業展開について皆さんと検討したいと考えます。

鋼で作られる本体の部分(S45CやS35C)は、鍛造、焼き入れ、低温焼き戻しといった核となる教育内容は、共通しています。中学1・2年生でも比較的短い時間数で金属加工実習を是非とも行いたいという方がすぐにでも使えると評判の実習を体験していただきます。